

カントリー・レポート（仮訳） フィリピン

エストレーラ・F・アラバストロ
フィリピン科学技術省 長官

議長

ご列席の大臣のみなさま
各国代表のみなさま
会場のみなさま

この第4回アジア原子力協力フォーラム(FNCA)に出席できたことは、私の大きな喜びであり、榮譽といたすところであります。フィリピン政府とフィリピンからの参加者一同に代わりまして、このフォーラムにお招きいただいた日本政府のみなさまに感謝申し上げます。みなさま方にフィリピンにおける国民の生活向上のための科学技術、とくに原子力技術利用についてご報告できることは望外の幸いであります。

さて、議長

フィリピン政府の(社会・経済)開発計画は、現世代、将来世代のフィリピン国民のため、経済成長と社会公正および環境保護とを両立させることをその柱としております。

わが国の科学技術政策・計画も、緊急を要する国家問題に取組み、産業、とくに中小企業(SME)を支援し、技術移転・利用を加速し、人材養成を行うとともに科学技術の促進・普及をはかることで、この開発目標の達成をサポートするものです。

フィリピン科学技術省(DOST)は、「中小企業を対象とした技術改善計画」(SETUP)および「革新的技術の商業化計画」(TECHNICOM)という2つの重要な計画の推進を最優先課題といたしております。SETUPは、技術利用および改善を通じて中小企業の生産性を向上させるための全国規模の計画です。この計画では、各地方州の農業、製造業またはサービス業などの企業に対して、技術改善のための支援・サービスが一貫して提供されています。この計画による社会・経済的な効果は、地方を対象としたものであります。

一方、TECHNICOMは、革新的技術の企業化を促進するためのものです。この計画では、特定分野における革新的技術の商業化または利用の早期実現のため、全面的・包括的な支援を集中的に行うものです。この計画により、技術革新を刺激し、中小企業の研究開発能力を強化し、民間企業による政府が先鞭をつけた研究開発の成果の導入および商業化を増加させ、政府の研究開発投資を最大限に活用できると期待されています。

さて、議長

原子力科学技術は、フィリピンの科学技術制度において重要な一部であり、今後も社会・経済開発と技術開発において重要な役割を果たし続けるでしょう。フィリピンでは、原子力科学技術は、農業、医療・健康、バイオテクノロジー、地球・海洋科学、エネルギー、材料科学、製造・加工技術、環境などのニッチ(スピノフとしての他分野への応用技術)が開発されてきました。ここで、こうした分野への原子力科学技術利用の進展状況をご報告いたしたいと思います。

まず、農業分野といたしましては、わが国の農業省がこのほど、農産物への放射線照射の商業利用の評価のための専門家グループを設置いたしました。このグループは、主査をフィリピン原子力研究所(PNRI)が務めており、手始めにフィリピン産果物の輸出に伴う植物検疫をクリアーするための放射線照射の商業利用について評価を行ってきています。また、突然変異育種の分野では、フィリピン原子力研究所が、2003年9月に開催されましたFNCA突然変異育種ワークショップと合わせて公開講座を開催いたしました。この公開講座に参加したミンダナオ島の有力な観賞用植物の生産会社が、放射線照射施設を利用するようになりました。

健康・医療分野では、核医学研究所、放射線治療施設およびティッシュバンクが官民の病院に設置されてきています。2001年には、民間病院に医療用サイクロトロンとポジトロン放出断層撮影(PET)センターが操業開始し、がん患者の治療に役立てられています。また、国際原子力機関(IAEA)の支援により、レニウム188のような新しいラジオアイソトープを使った特定の種類のがんの治療についても臨床試験が行われています。フィリピンは、FNCA放射線治療プロジェクトに参加したことで、わが国のがん患者、とくに子宮頸がんと咽鼻頭がんの患者の治療への最善の標準治療手順(プロトコル)の適用が進んでいます。

次に環境分野ですが、フィリピンは、有害な赤潮の主要毒素であるサキシトクシン(ある種のプランクトンが分泌する神経毒、貝類の食中毒の原因)の高感度で、迅速かつ低コストの分析技術ではアジアでも先端に位置します。フィリピンは、ラジオアイソトープを使ったこの神経毒のラベリングを拡大しております。フィリピン原子力研究所は、原子力技術を利用した分析法を使って、マニラ首都圏の大気浮遊塵のデータベースを構築いたしました。このデータベースは、この種のものでは初であり、大気汚染の大きな原因となっている大気浮遊塵の情報を得るのに使えます。また、ミンダナオ島の社会・経済の中心地であり、観光客も増加しているダバオ市で、アイソトープを使った地下水系の特定も実施されました。こうした情報は、意思決定者や水資源の管理者が分水界の保全区域を設定したり、飲料水の汚染を事前に防止措置を講じるためのデータとして利用することができます。

以上、ご報告いたしました例は、フィリピンにおける原子力科学技術利用のほんの一角に過ぎません。わが国といたしましては、従来型技術と比べて原子力技術のメリットの大きい様々な問題の解決に、これを利用し続けたいと考えております。

さて、議長

人材の教育訓練は、わが国の長期的な原子力計画の成功・存続にとって重要な要素の 1 つであります。フィリピンの人材養成戦略は、次の点に注力しています：

- 1) 学校、大学における原子力科学技術教育(若年世代のための原子力科学技術)
- 2) 国際協力の役割
- 3) 教育訓練のための新技術
- 4) 専門的能力の維持

国際協力については、フィリピンはアジア地域において、情報技術(IT)または E ラーニング(サイバーラーニング)のノウハウを共有することを繰り返し提案しております。また、フィリピンは、日本の文部科学省(MEXT)の研究交流制度の原子力分野の修士・博士課程の学生への適用拡大を含めた 2003 年 FNCA 人材養成ワークショップのあらゆる勧告を支持いたします。

さて、議長

フィリピンが参加いたしております FNCA プロジェクトは、計画通り順調に進展しております。フィリピンといたしましては、あらためて FNCA に対する強いコミットメントを再表明いたしたいと思っております。この意味からも、わが国といたしましては、2004 年の FNCA 放射線治療ワークショップ、2005 年の FNCA 原子力安全文化ワークショップのホスト国となることを申し上げますとともに、2008 年の第 9 回 FNCA の開催国とさせていただきますことも考えております。

最後となりますが、わが国といたしまして、原子力科学技術がアジア・太平洋地域、とくに発展途上国における生活の質の向上のため、原子力科学技術ならではの成果をもたらすとの確信を表明いたします。アジア地域における原子力科学技術の継続的な利用は、オープンかつターゲットを明確にした国際協力ができるかどうかにかかっています。FNCA は、このオープンかつターゲットを明確にした国際協力のための確立された体制であることが明らかになっております。

わが国といたしましても、今後とも、FNCA 体制が参加各国の成長と繁栄に貢献することを期待いたします。

本会場のご成功をお祈りいたします。

ご清聴ありがとうございました。